

ご無沙汰しております。昨年は家庭の不幸のため、ご挨拶を控えさせていただきましたが皆さんお元気でお過ごしのことと思います。

1999年初めにメルボルンから帰来し、以前の生活に戻っていたところ、秋の初め、一味の母の病気のことで弟から連絡がありました。母は97年から悪性リンパ腫と戦っていましたが、あらゆる手をつくしたにもかかわらず日本での治療の可能性が無くなり、日本では認可されていないが米国では使える新薬の使用の可能性を調べて欲しいということでした。米国側の医師、弟、一味、由紀子の間で電子メールのやり取りをした結果、由紀子が勤めるアイオワ大学の付属病院に入院できることになりました。結果としては米国での治療も手後れでしたが、あの状態で米国まで来るのは母の体にとって並大抵のことではなかったはずですが、でも、それを取返してくれた母の気持ちに感謝しています。勝手に外国を生活をしている者にとって母の看病を満足にしてやれない心苦しさはいつも持っていました。母はその気持ちをくんでくれたかのように、我々に面倒を見させてくれました。「やるだけやってみよう。それでだめなら、しょうがないじゃない。」と最後まで言っていた母の言葉があまりにも前向きで忘れられません。東京に帰ってから1週間後の12月12日にリンパ腫とみごとに戦った母は永眠いたしました。悪いことは重なるもので、ほぼ同時に一味の父が胆嚢炎で手術、大晦日まで入院となりました。

このようなわけで、2000年は慌ただしく始まりました。前の学期、由紀子も一味も同僚の好意に甘え迷惑をかけていたこともまり、春学期は遅れを取り戻すための学期ということになりました。いったい何をしていたのか良く覚えていませんが、とにかく忙しい一学期を過ごしました。

六月には由紀子が仕事で日本に戻るようになっていましたので、その機会を利用して、二人で日本に戻りました。無理もないことですが、父は母の写真を見ては涙し、その悲しみが癒える日はやく来ることを心の中で願いました。父と母のふるさと岐阜県郡上八幡に行って、母の菩提寺にお参りをし、そこから、二年ぶりに由紀子の故郷に行きました。約11年前に脳腫瘍で夫をなくした由紀子の母には父の苦しみがよく分かるようでした。以前からつりが趣味だった父は、長年のつり友だちを亡くし、母の病気もあって、最近ほとんどつりをしていませんでしたが、久しぶりに四国の海で釣りや四万十川のアユ釣りに挑戦しました。一味は初めて四国の海でダイブをしました。（日本に行ってもダイブのことを考えられるとは幸せな人間ですね。）四国では由紀子の父親の墓参りを、東京に戻ってからは弟一家と母の墓参りをしました。

その後、カウアイ島に行きました。カウアイ島はハワイ六島の中で一番古い島で、火山というよりも緑が多くジュラシックパークやキングコングなど数々の映画のロケ地になっています。一味は例によってダイブをしました。二人で乗馬もしましたが、経験のない一味は短パンをはいていたため、股が擦り切れて痛い思いをしました。（どうしてカウボーイがGパンをはくのかよく理解できました。）観光ヘリコプターは高くてなかなか手が出ませんが、カウアイ島のヘリコプターだけはお金を払う価値があります。本当に映画でしか見られなかった世界が目前に広がります。

七月に由紀子はコロンビア大学で講義をし、一味は日本語教育学会の要請で再び東京に戻り情報リテラシーの講義をしました。八月の初めにはミシガン大学から友人の由紀ジョンソンさんが遊びに来ました。ジョンソンさんと由紀子は今年テニユア審査があり、また二人とも日本語科の主任という雑用の多いポジションにいるため、お互い話すことが多いようです。（テニユア審査とは就職して6年目にある審査のことで、これに通るとその大学にずっといられ、だめだと、一年以内に出ていかなければなりません。）

秋学期には由紀子はミー太郎とアイオワ大学へ、一味はチビタンとパデュー大学に戻りました。犬猫はどちらも元気です（ニャー：ミー太郎、ワン：チビタン）が、チビタンは虫歯を5本抜く運命にあります。親のカズも今年は保険ではカバーしきれないほど歯の治療にお金がかかりました。由紀子の仕事は以前から増える傾向にありましたが、日本語関係の同僚がいなくなったこともあり今年には特に忙しいのか、インディアナに戻ったのはサンクスギビングとインディアナ大学での学会の時だけでした。冬休みは自分の勉強に集中するそうです。一味は相変わらずコンピュータと戦っています。夏におこなった情報リテラシーの講義が好評だったので、それを日本語と英語の本にまとめています。11月にはACTFL（全米外国語教師学会）へ行きました。ACTFLの魅力の一つは、ふだんお会いできない先生方や同僚のみなさんに会えるということですが、今年は牧野先生、三浦先生、角谷先生、ワット先生、加賀さんをはじめいろいろな方がいらっやっていたので、本当に身のあるものになりました。由紀子は大学時代の友だちで日本語教師になった宗田さんに会うという偶然に恵まれました。それから、由紀子は例によってディスクカウントの本を買って帰りました。（この重い本を持って帰るのはいつも一味です。）教科書の「なかま1」も「なかま2」は学会などでは使っている人からお褒めの言葉や厳しい指摘を頂いたりしていますが、想像通りとはいえ、まだまだ勉強が足りないということを改めて感じさせられました。春からは教科書に基づいたコンピュータプログラムの製作を本格的に始めるつもりです。

シドニーオリンピックの間は、オーストラリア各地の風景を見ることができ、懐かしく思い出されました。しかし、テレビからでは本当のよさはやはり伝わってきません。是非また行きたいという気持ちが強まりました。

忙しい中、3、4年ぶりにおこなったサンクスギビングはとてりラックスできるものでした。ミシガンからはジョンソンさんと彼女のボーイフレンドのジェフさんが、テラホートという近隣の町からはパデューの卒業生の久保田さんが来てくれました。それから、パデューの同僚のダニエルとパデューに客員でいらっやっていた都立大学の西郡先生も来てくれました。仕事を全く抜きで、気のおけない人たちと休日を過ごすのは本当に久しぶりのことでした。今年日本から友人の堀田さんの娘さんの有美ちゃんが冬休みに来ることもあって、ジェフさんの助けではでにクリスマスの飾りを家の外と中につけました。（近所でも結構目立っている。）

一味のゴルフは続いています。でも、スコア的には少し伸び悩んでいます。（来年こそはコンスタントに80代を達成します。（Yukiko: 無駄な抵抗））バスケットボールも続けますが、やはり体力的にはきつくなってきて、回数が少し減りました。

12月はパデューでお世話になったアンソニー（先輩の教授）とマリアの結婚式にフロリダへ行きました。その後、母の一周忌で一味は二週間ほど東京で過ごすこととなります。一月には二人で初めてメキシコに行く予定です。（またダイブです！！！！もちろん）それでは皆さん楽しいクリスマスとよい新世紀をお迎えください。

一味 & 由紀子